講義科目名称：　インタープロフェッショナルワーク　　授業コード：20072

英文科目名称：　Interprofessional Work

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位	選択必修
担当教員			
木戸　宜子・鶴岡　浩樹			
添付ファイル			

講義概要	保健医療福祉サービスを活用する利用者やその家族への支援を、様々な地域の機関に所属する専門職との連携および地域住民やボランティアなどとの連携によって実践するための理論の理解を深める。 演習として、実際に自分達が実践している現象との照らし合わせを行って理論と実践をつなぎ合わせ、意図的な専門職連携実践ができるよう、専門職連携の実践力を養う。
各回の進行予定	第１回　インタープロフェッショナルワークの必要性・視点、保健医療福祉分野の専門職と共通基盤 保健・医療・福祉の各分野の特性、ならびに共通基盤、IPWが求められてきた背景について 第２回　専門職連携教育、教育方法論 インタープロフェッショナルエデュケーション(IPE)の考え方・コンピテンシー・、基盤となる理論（システム理論、役割理論）、大学等での教育について 第３回　インタープロフェッショナルワークの構造・カンファレンス ファシリテーション、必要なコンピテンシーについて 第４回　インタープロフェッショナルワークの事例分析 患者・利用者やその家族への支援の展開について学ぶ　例）認知症高齢者の退院に向けた病院・地域支援機関のカンファレンス場面 第５回　模擬インタープロフェッショナルワーク チームづくり、連携の体験（小グループでのワーク）～模擬カンファレンス場面をとおして 第６回　模擬インタープロフェッショナルワーク 事例場面をとおして、職種間、立場間の葛藤場面を体験し、対話のあり方、必要性について考える 第７回　小グループごとにプレゼンテーション 取り上げた実践事例・場面、及びチームづくり・葛藤・対話の経過 第８回　模擬インタープロフェッショナルワーク チームのリフレクション ①メンバーが自己のリフレクション ②チームがメンバーのリフレクション ③メンバーがチームのリフレクション ④チームがチームのリフレクション のステップをふんで
講義のねらいと到達目標	【講義のねらい】患者・利用者やその家族への支援について、専門職連携、機関間連携によるアプローチを実践するために必要な力量の向上を図る。 【到達目標】インタープロフェッショナルワークが必要となった背景について理解し、実践における基本的な考え方、専門職に求められる能力、スキルを習得する。インタープロフェッショナルワークの観点から、自己の実践を省察し、改善課題等を検討する。
指定教科書(テキスト)	
参考文献・関連ＵＲＬ等	大塚眞理子・木戸宜子・鶴岡浩樹編著「地域共生社会をつくる　多職種連携・協働のあり方とは」（ワールド・プランニング、2023） 埼玉県立大学編「新しいIPWを学ぶ－利用者と地域とともに展開する保健医療福祉連携」（中央法規出版、2022）
出欠確認方法	教員による目視ならびにリアクションペーパー。3回以上欠席した者の単位認定はできない。
成績評価の方法	評価は到達目標の達成状況を踏まえて行う。 リアクションペーパーの記載内容（5点×8回＝40点）、課題報告を含む授業への参加姿勢（20点）、課題レポート得点（40点）を総合して評価する。 課題レポートについては、自己の実践事例・場面や連携の体験について、インタープロフェッショナルの観点から考察することを課題とし、インタープロフェッショナルワークについての理解、習熟度、理論と実践とを結び付けて考察しているかについてについて評価する。
成績評価基準の内容	60点以上を可とし、60点未満を不可とする。
事前・事後学習のためのアドバイス	医療と福祉の連携を行うための態度とスキルを養うためには、異文化交流を積極的に行ったり、自分の実践を内省することが重要です。社会福祉分野でも、障害、精神、高齢者などに分かれており、分野間の連携協働が課題となっているので、まずは自分の分野とは異なる分野との交流を図っていきましょう。
他の科目との関連、教育課程の中での位置づけ、キーワード	多職種協働連携、多機関協働、チーム形成、ファシリテーション 【認定社会福祉士研修認証科目】
ベンチマーク	ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）に基づく評価指標 １．イ理論と実践の両面にわたる能力を備えている者

	２．ウ価値を基盤とした職業的倫理を深く理解した実践的な専門的職業人である者 ３．ア福祉実践とその現場の創造的な発展に必要な基本的な知識を修得した者